

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870600362
法人名	社会福祉法人 回生会
事業所名	グループホーム 福寿
所在地	愛媛県西条市飯岡3381番地の1
自己評価作成日	平成27年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・同一敷地内に病院・老健・デイケア・ユニット型特別養護老人ホーム・特別養護老人ホーム・デイサービス・ヘルパーステーション・ケアハウス等があり毎週連携会議を行い、情報交換をしている。</p> <p>・2ユニットで行事をしたり、お互い協力しながら、連携を図っている。</p> <p>・法人全体として、音楽療法を実施し、各ユニット週2回音楽療法士によるプログラムを実践し、利用者様から好評を得ている。</p> <p>・訪問看護師が定期的に来てくれ、利用者様の健康管理をしてくれている。</p> <p>・緑と自然に恵まれた環境の中で、ゆったりと時間が流れている。</p> <p>・法人として、地域の方々に来て頂き、コンサートを開催したり、日本赤十字の方を講師に招き、災害時の支援等の講習をしている。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年11月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>年2回の家族会には各ユニット5～7名の参加があり、利用者と一緒にコンニャクやうどん作りをしたり、ジェンカで遊んだり、盆踊り等して交流している。又、ご家族同士の交流の場にもなっている。ご家族から「職員の顔と名前が一致しない」と意見があったことをきっかけに、玄関に職員の顔写真と名前を掲示した。</p> <p>職員は、利用者の好みや出来ること等を踏まえ、一人ひとりが楽しめるようなレクリエーションをインターネットで探したり考えたりして提供している。利用者には、指の運動や早口ことばが喜ばれるようだ。</p> <p>ドライブのお好きな方が多く、外出の際には「海に行く？山に行く？」とお聞きして行先を決めている。椿温泉や湯之谷温泉の足湯をしたり、マインドシアの冬桜や紅葉を見にいたり、季節の花を見に行ったりしている。足湯をした後は、利用者の希望でアイスクリームを食べることもあり、みなで分けて食べられるよう、あらかじめ紙コップとスプーンを準備している。外出時は、車2台で出かけるようにして、突然の出来事にも対応できるようにしている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけられている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 福寿

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)
氏名 高橋 早智子

評価完了日 平成 27 年 10 月 25 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「一人ひとりのしあわせ・やすらぎづくり」という福寿の理念と、事業所全体の理念を事務所・玄関に掲示し、毎朝唱和してスタッフ全員で共有している。	
			(外部評価) 法人理念・事業所理念を事務所と玄関に掲示しており、毎朝の職員ミーティング後、全員で唱和している。管理者は「利用者の幸せと安らぎを常に念頭において、その人に合わせた介護を行う」ことや「利用者の立場になって相手が嬉しい、幸せ、と感じるように日々取り組みましょう」と職員に話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の老人会やミニデイに時々出向いて行き、グループホームの話しや認知症の話しをしている。また、法人として、地域の方々に来て頂き、コンサートを開いたり、日本赤十字社の方を講師に招き、災害時の支援等の講習をしている。盆踊りや芋炊き等の行事を通じて地域の方々と交流を図っている。	
			(外部評価) 法人全体で開催される盆踊りや芋たき、又、講演会やコンサート等には、利用者やご家族も参加して、地域の方々と交流している。運営推進会議の地域メンバーの一人は、事業所前の道が散歩コースになっており、事業所前にある菜園の野菜をみて収穫時期等を教えてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業所として、地域の老人会やミニデイなどに出かけていき、地域との交流を深めるよう取り組んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			<p>運営推進会議は2カ月に1度開催し、ご家族・地域代表・行政、事業所からは施設長・居宅介護事業所職員などが参加し、利用者の近況報告・健康状態・事業所の取り組みなどについて説明し、意見交換している。改善点があれば検討し改善している。さまざまな分野に依頼して専門的な話しをして頂いている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>メンバーの都合に合わせて会議の曜日、時間を決めている。会議では、利用者の様子や行事報告の他に、毎回、系列病院の薬剤師を招き、「インフルエンザについて」話してもらったり、訪問介護ステーションの方に「グループホームと訪問介護との連携について」話をしてもらおう等している。会議メンバーから「老健施設のことを知りたい」と希望があった際には、法人内施設の協力を得て説明してもらった。ご家族には、各ユニットから2名ずつ、1年間を通して同じ方に参加をお願いしている。</p>	<p>会議内容によって、参加者や時間帯等も工夫してみてもいいだろうか。会議の意義や目的等を踏まえて取り組みを工夫し、試してみてもいいだろうか。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			<p>相談があれば市役所を訪問したり、電話等でアドバイスして頂いている。また、2カ月に1度介護相談員が訪問してくれ、利用者と話したり、いろいろアドバイスを頂いている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>市の担当者は、運営推進会議時に、「成年後見制度について」のパンフレットを持参して説明してくれた。2ヶ月に1回、介護相談員の訪問があり、各ユニットに2名ずつ入り、利用者の話を聞いてくれている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			<p>スタッフミーティングで身体拘束について話しあっている。その結果、身体拘束は実施していない。</p>	
			(外部評価)	
			<p>法人主催の研修時に、職員は、身体拘束について勉強をしている。管理者は、職員との何気ない会話の中でも、さりげなく拘束について話している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日頃から虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、必要とする人はいないが、法人内の研修会で成年後見制度について学んだ。成年後見制度についてスタッフ同士話しあうことがある。今後も、学ぶ機会を持ちたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結や解約・改正等の際はご家族に十分説明し、疑問点や不安点を伺い理解・納得して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者との日頃の会話の中から、意見・要望を聞き、ご家族にも来訪時や家族会・運営推進会議等で意見や要望を聞いて運営に反映させている。 (外部評価) 年2回の家族会には各ユニット5～7名の参加があり、利用者と一緒にコンニャクやうどん作りをしたり、ジェンカで遊んだり、盆踊り等して交流している。又、ご家族同士の交流の場にもなっている。ご家族から「職員の顔と名前が一致しない」と意見があったことをきっかけに、玄関に職員の顔写真と名前を掲示した。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の仕事をしている中で意見や提案を聞いたり、職員会議で聞く機会を設け、運営に反映するよう努めている。個人的に聞く時もある。	
			(外部評価) 職員は、利用者の好みや出来ること等を踏まえ、一人ひとりが楽しめるようなレクリエーションをインターネットで探したり考えたりして提供している。利用者には、指の運動や早口ことばが喜ばれるようだ。今後は、広告を使って工作したり、菜園で野菜作り等しながら、利用者に来れ上がる楽しみを感じてもらえるよう、取り組みたいと話していた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課を定期的に行い、職員の努力や実績を適正に評価できるよう努めている。人員確保により、状況の変化にも対応できるよう整備している。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内での研修への参加はもちろん、介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得に支援している。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他のグループホームと相互訪問したり、管理者との交流を図っている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者・B棟責任者・介護支援専門員等が本人と面接し、利用に至るまでの状況や不安・要望を聞き取り、それらをスタッフに伝達し、情報を共有し、安心して頂けるような関係作りをしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者・B棟責任者・介護支援専門員等がご家族と面接し、利用に至るまでの状況や不安・希望を聞き取り、それらをスタッフに伝達し、情報を共有している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族から相談を受けた時、状況に応じて併設施設等も考慮しながら、今、必要としている支援を最大限できるよう対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者一人ひとりのできる事を見つけ、一緒に行っている。得意分野についてはスタッフが教えてもらっている。利用者同士で昔話をされ関係を深めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族が来訪時、利用者の健康状態・日頃の生活ぶりを伝え、行事などにも参加してもらい、楽しみながら利用者を支えていく関係作りをしている。土・日の訪問が多く、昼食をご家族と外でされる事も多い。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行事やドライブなどで外出した際、生活していた場所を見て回ったり、友人・知人が訪問しやすいような体制作りに取り組んでいる。 (外部評価) 事業所には毎日のように、来訪者がある。中には、以前の職場の方が来られ、ドライブや食事に連れ出してくれることもある。調査訪問日には、二人の娘さんが来られて、利用者と一緒に近くのスーパーに出かけ、おやつを食べて帰って来られた。数名でドライブに出かけるような時には、ご自宅を見て回るようなこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握することで、トラブル防止に努めている。スタッフの言葉がけにより、利用者が孤立しないように配慮している。利用者全員が楽しめるよう心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後、入院された方のお見舞いや、併設施設に入所された方の面会に行ったりしている。また、退所されたご家族から相談を受けたり関係を継続している方が多い。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃から利用者一人ひとりの声かけを重視し、会話や日々の様子から思いや意図をくみ取り、ご家族に相談したりしながら本人の意向・希望を把握するよう努めている。 (外部評価) 週2回、法人から音楽療法士が来ており、利用者は懐かしい歌を歌ったり、歌いながら歩行訓練等している。普段は居室からあまり出て来ない方も参加されるようだ。職員は、利用者と一対一でゆっくり話す機会を大切にしており、普段あまりお話ししないような方でも、昔していたことや思い出話をされて、心が落ち着く様子が見られるようだ。アセスメントは、センター方式の様式の一部を用いて情報をまとめており、新しい情報は追加記入して、年1回更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりのこれまでの経過や生活歴、馴染みの暮らし(環境・関係・生活)、これまでのサービス利用の状況については、本人の話しやご家族、サービス提供事業所から情報を得よう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活リズムパターンシートや介護支援記録から、精神面・身体面の状態の観察や気づきを生かし、本人にとっての安全・健やかさを保てるよう支援し、有する力等の現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の精神面・身体面の状態や状況による変化を見極め、本人・ご家族・医師・その他の関係者と意見交換を行いながら本人の情報・生活課題を捉え、介護計画を立案・作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、ご本人、ご家族の希望を聞き、利用者個々の担当職員が原案を作成して、ミーティング時に話し合いケアマネジャーがまとめている。モニタリングは、担当職員を中心に話し合いながら行い、3ヶ月毎の計画見直しにつなげている。状態変化時には、その都度見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>記録は本人の日々の言動や様子、ケアの実践等をわかりやすく記載し、利用者の現状にあった計画が実施されているかを確認し、課題解決に向け、スタッフ間で情報を共有しながら、変化に応じた支援ができるよう計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>希望があれば、併設施設を紹介したり、併設施設の行事に参加し、互いの交流を図るなど、本人やご家族の希望に添える環境作りを行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域の方々のボランティア活動や訪問などを通して、楽しみや生きがいのある生活が送れるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			(外部評価)	
			現在は、全員が併設病院を受診しており、定期受診時には、病院から都合の良い時間を連絡してくれ、職員が付き添って支援している。皮膚科や歯科の受診時は、ご家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			(外部評価)	
			現在、ご家族と相談しながら、主治医・看護師・ソーシャルワーカーなどと情報交換をし、ご家族の意向を尊重しながら対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			(外部評価)	
			重度化した場合は、主治医と十分話し合い、主治医がご家族に納得するまで説明している。併設病院に、「緩和ケア病棟」もあり、本人・ご家族と話し合い、希望に添えるよう支援している。また、重度化や終末期の利用者が本人・ご家族が望めば、当ホームで最後が迎えられるよう関係者全員で方針を共有している。入所時、主治医とご家族が重度化・終末期の方針について話し合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			(外部評価)	
			入居時、主治医がご家族に重度化・終末期の希望を聞いており、母体病院の緩和ケア病棟や併設施設のサービスについても説明している。ぎりぎりまでグループホームで過ごし、その後、ご家族の希望で緩和ケア病棟へ移った方もあり、管理者がお見舞いに行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応マニュアルがあり、救急救命法の研修会や避難訓練を実施し、質の向上を図っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署により、事業所全体で消防訓練・避難訓練を実施している。事故発生時の緊急連絡網も整備している。併設施設と緊急時の協力体制も確立できている。避難場所になっている場所まで、利用者と一緒に避難する訓練をしている。防災用としてヘルメットも常置している。 (外部評価) 2ユニット合同の避難訓練時には、全員が法人敷地内の特別養護老人ホーム前の避難場所まで避難する訓練を行った。職員は消火器の使い方を習った。米、水、乾パン、缶詰等の備蓄は、法人で3日～1週間分を確保している。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者同士の関係もみながらつなぎ役をしている。利用者のできる事は本人にしてみらったり、利用者にスタッフがいろいろ教えてもらったり、誇りをもって生活してもらえよう心がけている。プライバシーを損ねるような言葉かけがあった時は注意をしたり、話し合っって質の向上を図っている。 (外部評価) 車いすの利用者も、椅子に座り替えて食事ができるよう支援している。職員は、座り心地や杖を置く位置等、利用者「この位置で具合はいいですか」と聞いていた。「娘が来る」と何度も話し、落ち着かない方には、時間をおきながら、何度か敷地内の駐車場まで様子を見に行けるよう支援していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃の会話の中から、利用者の思いや希望を聞くことにより、自己決定できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせて、ゆったり過ごして頂くよう心がけている。希望に添えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 生活歴の把握などにより、その方の個性に合わせたおしゃれを最大限引き出すよう努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の献立は、併設施設の栄養士が立てているが、利用者の好みや農園で収穫した作物を使ったりして、変更する事もある。食事の支度や片付けは無理のない程度に手伝ってもらっている。	
			(外部評価) 職員は利用者と同じテーブルでお話をしながら食事をしている。おかずに箸がすすまない利用者には、「〇〇さん、頑張って食べとるね。もうちょっと頑張れるかなあ。このじゃがいもは北海道から飛行機に乗ってやって来たから美味しいよ。食べてみよう」と、やさしい口調ですすめていた。利用者は、「そうかね」と食べ始めていた。利用者は、じゃがいもの皮むきやお膳の用意、スプーンやお箸の準備等をしている。菜園で収穫した野菜も食卓にのぼる。生野菜を好まない方もあるが、温野菜にしてチーズを乗せると喜ばれるようだ。食器は陶器を使用しているが、お茶碗が重たそうになった方には軽めの陶器に替えている。温かいものは温かく、冷たいものは冷たくして食事を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の栄養バランスは栄養士がカロリー計算をしており、食事量・水分量は毎回記録し、チェックしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた口腔ケアをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 生活リズムパターンシートの記録で、一人ひとりの排泄リズムを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。その結果、おむつでなくなった方もいる。	
			(外部評価) 夜間のみポータブルトイレを使用する方には、ご自分で排泄できるため、職員は居室の扉を隙間程度開けておき、動きを感じたら扉の外で見守りして、後でそっと後片づけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給、繊維質の多い食品をとるよう心掛けている。体操や散歩など個々に応じた働きかけをしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 日曜日以外毎日入浴してもらっている。入浴を拒否された時は、無理に誘わず、時間をおいて再度声かけしたり、他のスタッフが声かけしたりしている。また、時間帯も考えて個々に応じた入浴支援をしている。	
			(外部評価) 基本的に週3回入浴を支援しており、熱いお湯がお好きな方やぬるめがお好きな方等、好みに対応している。又、利用者の中には、その日の気分で同性介助を希望する方があり、その時々に対応している。入浴を嫌がる方には、娘さんの来訪時に声かけしてもらおうと入浴につながるような場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その方の生活習慣を大切に、日中、居室で休んで頂いたり、フロアのソファに横になって頂いたり、自由に過ごして頂いている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に日付を入れ、ミスのないように努めている。服薬確認表を作成し、毎回、投薬した職員が確認表に捺印している。薬の目的や用法については、病院で発行してくれる説明書で理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の手伝いや洗濯物をたたんでもらっている。庭の草引きを手伝ってくれたり一人ひとりにあった支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気が良く、時間がある時、ドライブに行ったり買い物に行ったりした。湯の谷温泉で足湯をしたり、季節感を味わって頂く為に外出した。ドライブの途中、思い出の場所や懐かしい場所を回った。	
			(外部評価) ドライブのお好きな方が多く、外出の際には「海に行く？山に行く？」とお聞きして行先を決めている。椿温泉や湯之谷温泉の足湯をしたり、マイントピアの冬桜や紅葉を見にいたり、季節の花を見に行ったりしている。足湯をした後には、利用者の希望でアイスクリームを食べることもあり、みなで分けて食べられるよう、あらかじめ紙コップとスプーンを準備している。外出時は、車2台で出かけるようにして、突然の出来事にも対応できるようにしている。今後も外出の機会を増やしたいと考えており、施設長が運転手として加わり、黒瀬ダムや西山興隆寺の紅葉見物を計画していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人の希望でお金を所持している方もいるが、お金の管理が難しい方がほとんどである。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があればその都度対応している。手紙等は家族会などで、ご家族の協力を得ながら書いてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 光が強すぎないように、すだれ・グリーンカーテン・カーテンを利用している。季節の花を活けたり、行事の時の写真・グループホーム便り等で季節感が味わえるよう工夫している。温度調節もこまめにしている。	
			(外部評価) 玄関先にはパンジーや黄花秋桜が咲いており、チューリップの球根もたくさん植えていた。菜園では、トマトやスイカ、かぼちゃやナス等が収穫でき、利用者は水やり等を行っている。西条祭りのだんじりが来てくれた際に撮った写真が飾ってあった。居間は南向きで、夏は立て簾で日よけをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有の場所にソファや畳を設置し、思い思いのに過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族と相談しながら、使い慣れたものや馴染みの物を持ってきてもらっている。ご主人の写真・ご家族・親類などの思い出の写真など掲示している。	
			(外部評価) 利用者のお一人は、ベッドにいつも折り紙を置いておき、鶴を折っている。娘さんが来られた時にも、一緒におしゃべりしながら折り、千羽鶴にして飾ってあった。亡き夫やお孫さんの写真、又、ご家族と一緒にいった旅行の写真を飾っている居室もあった。姿見を置いておしゃべりに気を使う方や、CDプレーヤーで演歌を楽しむ方もある。夏は、すだれで日よけしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 転倒防止の為、廊下・風呂・トイレ等に手すりを設置している、一人ひとりの出来ることを把握し支援している。	
			(外部評価)	